



竹林

白河市立五箇中学校だより No. 36

発行 令和2年12月18日
発行責任者 校長 菅野 靖



福島県造形秀作審査会で3名の生徒が「特選」をいただきました



【鈴木 優斗さんの作品】



【飯田 真尋さんの作品】



【鈴木 里歩さんの作品】

東西しらかわ中学校造形作品展に出品した12名の作品から、3名の作品が「特選」をいただき、県中学校造形展作品秀作審査会に出品されました。その出品した3作品が「特選」をいただき、大変素晴らしい結果でした。

○鈴木 優斗さん(1年生)「懐かしい思い出」物体と影との間の稜線を線だけにならないように描きました。

○飯田 真尋さん(2年生)「見慣れた景色」ドライブラシやウォッシュの技法を利用して表現しました。

○鈴木 里歩さん(3年生)「等角投影図法による階段」左右対称のデザインで暖色と寒色の工夫をしました。

なかなか、県レベルの美術作品コンクールで特選を受賞することは難しく、大変名誉なことであると思います。日頃の授業で、作品の制作に真摯に向かい合い、豊かに発想した構想や造形的な美しさ、表現技法が評価されたのだと思います。主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美を愛好する心情や豊かな生活を創造していけるよう、これからも取り組んでほしいと思います。

「日々の継続した努力が大切！」全校朝の会でお話しました

12月14日(月)に全校朝の会で、校長より「継続した日々の努力の大切さ」についての話をしました。

11月末の社会の週末課題テストは、全校生が合格しました。大変素晴らしいことです。五箇中学校は基礎学力の定着に力を入れており、週末課題テストの合格者(8割以上の得点)の割合が90%以上を目指しています。今回の週末課題テストの合格者は、100%でしたので納得がいく結果です。

基礎力が定着すれば、知識や技能を活用する力や思考する力や表現する力も発揮され、目の前の課題や問題、試練を適切に判断し、思考したりして解決できるようになります。中学校の3年間で110mH走に例えてみると、レーンの中にあるハードルは、ゴールに到達するための試練です。目標を達成させるためには目の前の試練を一つ一つ飛び越える必要があります。まさしく、生徒の皆さんはそれぞれの自分のレーンの試練を飛び越え疾走中です。今、この時点で、1年生は30mの地点、2年生は65m地点、3年生は100mの地点を走っています。特に3年生は、残り10mほどしか中学校生活は残されていませんが、最後の試練に高校入試という高いハードルが残されています。

生徒一人一人の走る速さは違いますが、自分の目の前のハードルを飛び越えるために、助走の一步を確実に出して、なおかつリズムカルに、そして力強く走り、試練を乗り越えてほしいと思います。そのためにも、日々の一步一步の継続した努力(基礎学力の定着)が大切になってくるのです。



【Bistro Goka】テーブルマナー給食 開催



12月14日(月)に3年生対象のテーブルマナー給食が開催されました。西洋料理の食事のマナーやナイフやフォークの使い方など、大人のたしなみを学びました。スープ、サラダ、クロワッサン、ポークソテー、デザートをおいしくいただき、贅沢な一時となりました。

